

## 令和5年 第4回北九州市立図書館協議会 会議録

日時： 令和5年8月22日(火) 14:00～16:00

場所： 北九州市立子ども図書館2階 大研修室

### 出席者

#### ○委員(会長他10名、欠席委員4名)

北九州市立大学前図書館長	中尾 泰士(会長)
北九州市学校図書館協議会会長	本田 壽志
福岡県公立高等学校校長協会北九州地区会長	谷川 陽一
北九州市PTA協議会副会長	福田 百合加(副会長)
(一社)北九州青年会議所理事	末吉 智久美
公募委員	山中 啓稔
北九州市社会教育委員	宮本 和代
北九州市婦人団体協議会監査	吉松 喜美子
北九州児童文化連盟副会長	阿部 和代
九州国際大学図書館長	山口 秋義
公募委員	鈴木 研

#### ○事務局(中央図書館長他8名)

中央図書館長	柴田 憲志
中央図書館副館長、子ども図書館長	金子 二康
中央図書館運営企画課長	藤原 定男
中央図書館運営企画課庶務係長	内徳 誠治
中央図書館運営企画課デジタル企画係長	佐藤 孝徳
中央図書館奉仕課奉仕係長	堀尾 節子
中央図書館奉仕課資料係長	善家 三知代
子ども図書館企画係長	荒田 智代
子ども図書館学校図書館支援係長	北谷 真司

#### ○傍聴者 1名

### 会議次第

#### 1 議事

- (1) 令和5年度北九州市の図書館(図書館年報)について
- (2) 令和4年度北九州市立図書館の運営に関する評価について

#### 2 その他

## 1 議事

### (1) 令和5年度北九州市の図書館(図書館年報)について

「北九州市の図書館(図書館年報)」について資料に基づき、事務局から説明。

(委員)

19 ページと 28 ページに、読書会について異なる数字があるがなぜか。

(事務局)

19 ページの数字は、登録者数と貸出冊数の報告で、28 ページの数字は読書会の実施回数と参加人数で、データの重なりはない。どちらも館内・館外含めた数である。

(委員)

読書会のように図書館のインフラやサービスを利用して、コミュニティの活動をサポートすることを目指すのであれば、単に数字の報告より、それをどうするかにフォーカスし、プロセスを重視していく方がよいのではないか。

もう1点は、30、31 ページの広域利用について。築上町の登録者数が0人なのに、貸出冊数が結構ある。これはどういうことか。

(事務局)

この表は、令和4年度の広域利用事業の利用実績を掲載している。おたずねの件については、北九州市民が築上町の図書館を利用するにあたり、令和4年度に新規に登録した方は0人であったが、令和3年度以前に登録した方が図書を借りたということになる。

(委員)

15 ページの図書館費の推移について。令和4年度から令和5年度にかけて、図書資料購入等の費用が減額されている。市民1人当たりの図書費はわずかながら増えているので、人口減を考慮した予算減かもしれないが、図書購入費と図書館改修整備費が減額されている。生涯教育という観点から図書館は大事なところなので、今後、市議会に働きかけていただきたい。

(事務局)

予算については、市費全体の予算の制約等がある中で、図書館の経費を要求していくことになる。全体調整の中でいろいろと、その年の注力する点などメリハリをつけながら要求していきたい。

(委員)

同じく15ページの中央図書館改修の予算について、令和4年度が計上されているが、令和5年度は全くないのか。

(事務局)

令和4年度は中央図書館の屋上の防水工事を行った。大規模な工事が必要な場合、このような突出した数字が出るということがある。通常の維持管理は平均的な予算の中でやりく

りすることが多い。

(委員)

本の通帳(読書記録)システム整備事業で、令和4年度までしっかりと予算があったが、令和5年度に大幅減となっているのはなぜか。

(事務局)

この事業については、令和4年～5年の途中まで子ども図書館が予算を確保して、賄ってきたが、今年度9月の図書館システム改修予算に組み込まれたため、この事業の予算が減ったように見えている。

(委員)

29ページの行事の見学について。八幡南分館の視察・見学が多いのは、何か素晴らしい取組があったのか。

(事務局)

他の図書館では小学生の見学が主だが、八幡南分館は幼稚園・保育園児の見学が多い。毎月200名ほどが本を借りに来るなど近隣の幼稚園・保育園との連携・交流がさかんである。

(委員)

折尾分館は八幡西区にあるのに、八幡西図書館ではなく、八幡図書館の分館となっているのはなぜか。

(事務局)

もともと八幡図書館の分館として折尾分館があり、管理も八幡図書館の指定管理者が折尾分館の管理を行っていた。その後、八幡西図書館が新設されたが、八幡図書館が折尾分館の管理も含めた指定管理の流れを継続しているためである。

(委員)

蔵書は中央図書館が圧倒的に多いのにも関わらず、貸出冊数は小倉南図書館や八幡西図書館の方が多いためはなぜか。

(事務局)

市立図書館全体のセンター的な役割を担っている中央図書館は、閉架書庫も他の図書館と比べて大きく、行政資料や、統計・年鑑、過去からの古い資料など、貸し出しの頻度こそ低くても重要な資料を保存している。一方、八幡西図書館・小倉南図書館は新しい図書館で、蔵書構成も新しく人気のある本を取りそろえているため、貸出冊数が多くなっている。

(委員)

子ども電子図書館の登録者数というのは、こちらからIDを配付した数ということか。それとも、希望があって貸出カードを作った数か。

(事務局)

子ども電子図書館の登録者数は、こちらから ID を配布した数と、ご希望があって登録した数も含まれている。電子図書館の登録者数は、一般の図書館の登録者数には含まれていない。

(委員)

33 ページの6、子ども電子図書館に関して。令和 4 年度の年報の数字と比べると、登録者数、蔵書数ともに増えているが、貸出回数が半分以下に減っている。令和 3 年度は 1 万 6,672 件、令和 4 年度は半分を大きく下回り 7,221 件である。その原因として考えられることはあるか。

(事務局)

令和 3 年度子ども電子図書館が開設された趣旨は、コロナ禍のため休校や学級閉鎖等で、学習機会や読書機会が失われていったため、急遽予算化して、子ども電子図書館を開設した。開設当初は子どもの利用が非常に多くあったが、徐々にコロナの影響も収まり、学校は平常通り授業が行われるようになった。そのような中で、電子図書館の利用はある一定数の利用はあるものの、特段何かに駆られて利用するというような状況ではないと思われる。

しかし、より気軽に利用してもらうことは、非常に大切なことで、例えば、不登校のお子さんに向けての発信や、大人の方に向けての発信などについて検討を進めているところである。

(委員)

指定管理者の不祥事の影響はこの年報に入っているのか。

(事務局)

若松図書館において、令和 4 年 11 月末から令和 5 年 3 月末まで貸出冊数を水増しするという不正行為があった。年報の数字は公表前に修正をして、実際に貸出された正しい冊数を出している。よって、今回の統計に不正行為による冊数の水増し等の数字は含まれていない。

## (2) 令和 4 年度北九州市立図書館の運営に関する評価について

「北九州市立図書館の運営に関する評価」について、事務局から説明。

### 「総括」について

質問・意見等なし

### 視点1「多様な施設とつながる図書館」について

(委員) 視点1-(1)-③「地元ゆかりの作家作品の充実」

利用者が地元ゆかりの作家の著作により触れられる機会を作るために、展示などの工夫をするとよい。

(委員)視点 1-(2)-6「大学との連携」

「門司図書館では、九工大による出前講座を開催した」とあったが、せっかくだったら、大学は最寄りの図書館と連携するとよいのではないか。

(委員)

門司のように大学がない区もあり、図書館職員が工夫して努力をしているのがよくわかる。大学との連携が A 評価というのはよいことだと思う。

(委員)視点 1-(2)-6 「大学との連携」

生涯学習センターの講座のように、地元の大学に活躍していただける場を設定してはどうか。また、ポスターやホームページなどでシリーズセミナーを紹介できれば効果的な案内ができるのではないか。

(委員)視点 1-(2)-7「ネットワーク機能の充実」

政令市や近隣の市町村など、北九州市を越えたところでの繋がりは今後予定しているか。

(事務局)

相互貸借という点では、県立図書館が主体となり、システム及び県内の公共図書館間の配送ネットワークを利用して、県内の図書館の蔵書の検索や貸借ができるようになっている。また、県立図書館が中心となり、図書館の職員研修会も開催されていて、北九州市からも参加している。

(委員)

県内の図書館の所蔵状況は、一般市民でも検索できるのか。

(事務局)

「カーリル」というサイトで、検索できる。通常、利用者は北九州市のシステムを検索して所蔵がない場合、リクエスト申込書を出される。図書館ではそのリクエストを受け、購入か県内の他図書館から借りるかを決めることが多い。

(委員)視点 1-(3)-⑧「観光情報の提供」

「戸畑図書館では、市内各区の制作の観光情報誌を全部置いている」とあるが、市内全館、特に中央図書館はぜひやっていただきたい。観光客に中央図書館や文学館を訪れてもらうための工夫が欲しい。

(事務局)

中央図書館では、多くのチラシやパンフレットが送られてきて、観光情報でもあり郷土資料になるので、全部受け入れている。収集保存はしているが、これからは情報提供にも力を入れたい。

(委員)

福岡県の中でも北九州市には戦争遺跡が一番多い。来年度九州国際大学で行われる戦争遺跡の全国大会に絡めて、北九州の戦争遺跡を図書館で見られたらよい。

(事務局)

北九州市にはいろいろな戦争遺跡がある。今図書館が力を入れて残していかないと消えていくものだから、郷土会活動など図書館の特色を生かし図書館づくりをしていきたい。

(会長)

視点1についての評価については、概ねこの通りでよろしいということにする。

### 視点2「市民の課題解決を支援する図書館」について

(委員)視点2-(2)-⑤「地域の特性などを活かした図書館づくり」

北九州市は地域の特色をととても生かしていると思う。5市合併以来、自分たちの図書館を作るために、各図書館が特色を活かそうと工夫している。今回もA評価でもよいと思う。来年はぜひA評価にしていきたい

(事務局)

旧5市それぞれの特徴が図書館に引き継がれており、各図書館のテーマに従って、資料を重点的に集めている。

(委員)視点2-(1)-①「相談内容のデータベース化」

レファレンス協同データベースで、国立国会図書館から表彰を受けた点について、ホームページにアップしているが、みんながホームページを見ているわけではないので、「こういう質問にこのように答えた。」と見える形で、館内掲示してほしい。また、北九州市の取組が国立国会図書館のデータベース掲載されていることを宣伝してほしい。

(委員)

私は、北九州市民になって日が浅く、5市の特徴がどうなのか知らないもので、図書館ごとにテーマがあるということを開示していくことで、「こういうテーマならあの図書館に行けばいい」ということがわかったりするかと思う。各図書館のいろいろなタイプのお宝を見せることが、利用者の便に供すると思う。

(会長)

視点2については、評価はこのままでよいということだが、来年度はA評価になるように努力いただければと思う。

### 視点3「子どもの読書活動を積極的に推進する図書館」について

(委員)視点3-(1)-⑦「ヤングアダルト向け図書資料の充実」

ヤングアダルトに関して、映画やテレビドラマ、アニメなどと絡めた本や映画のチラシやポス

ター等、若者世代がネットで見ているようなものに関連したものとよい。

(委員)

中央図書館と折尾分館がヤングアダルト向け図書を集中的に購入したことによって、何か効果があったか。

(事務局)

予算の状況を見ながら令和 4 年度末にヤングアダルト向けの図書を集中的に購入した。効果があらわれているかどうかは、購入して日が浅いために、まだ把握できていない。今回ヤングアダルト向け図書に力を入れたのは、高校生・大学生は学校などが忙しく、図書館に来る機会が少なくなるので、何とか高校生以上の若い方に図書館を利用してもらうために、ヤングアダルトコーナーの書架を広くしたり、学習室を利用している高校生のために、学習室前に学習室文庫を設置したりするなど、高校生の役に立ちそうなことを試行的におこなっている。良い効果があるかどうか分析をする必要がある。

(会長)

視点 3 については、この評価で概ね問題ないとする。

#### 視点4「誰もが使いやすく、人や情報が交流する図書館」について

(委員) 視点 4-(1)-④「子ども向け電子図書館の導入

④の子ども向け電子図書館の導入のところで、大人も利用できるということで安心したが、子どもだけという印象を受けやすい。どこかに大人も高校生も借りられますという記載があるか。

(事務局)

看板は「子ども電子図書館」となっているが、実質的には、大人の利用にも問題のないものである。大人の方に使っていただけるように、しっかり広報していく方向で検討中である。

(委員)

子ども電子図書館について、貸出回数は1年前と比べて半分以下になっている。紙ベースの図書の貸出冊数は登録者数の約30倍ぐらいである。ところがこの電子図書館については、貸出数が登録者数の1割を切っており、ほとんどの子どもは使っていないというのが現状である。子どもにとって、このサイトが使いやすいものになっているのかどうか検証をする必要がある。

私はこの評価を変える必要はないと思うが、これを A 評価のままでもいいのかというご批判が出てくると思われる。その時の対応が心配される。

(事務局)

通常の図書館カードは、利用者が希望して作るものであるのに対し、この子ども電子図書館のもともとの成り立ちが、「準備しました、さあ、使ってください。」というもので、すべてのお子さんが望んでいたものではなかったかもしれない。最初は物珍しさもあってアクセス数は

増えたものの、今は一定数の利用がある状況である。たとえ利用者が少ないものであっても、間口は広げ、魅力発信しながら、いろいろなニーズに応え、利用しやすいものにしていかなければならないと感じている。時間と人手の関係で正確な分析ができていないが、試行錯誤しながらやっている状況である。

(委員)

八幡西区のコムシティの地下にユースステーションがあり、年間に4万人(8割が高校生)が利用している。こういうところに図書を並べるのは難しいと思うが、電子図書館などを案内するものを目に入りやすいところに置いておくなどの取り組みをしてはどうか。

(委員)視点4-(1)-④

県立高校の生徒に対しても利用者IDの配布を行っていただきたい。

(事務局)

北九州市立の学校に限って配布したのは事情があったのではないかと思う。今ここで、回答をするのは非常に難しいが、今度どうするかについて検討していく。

(委員)視点4-(1)-①「Wi-Fiの整備」

Wi-Fiが未整備の館はどのくらいあるか。

(事務局)

市立図書館14館のうち、Wi-Fiが設置されているのが6館(中央図書館、子ども図書館、小倉南図書館、八幡図書館、八幡西図書館および折尾分館)である。

(委員)

中高生や観光客を呼びこみたい現在、公共施設にWi-Fiがないのはどうかと思う。図書館単独というよりは、関係各部署とも連携しながら予算獲得をめざせば、より優先度がアップするとおもわれる。

(委員)視点4-(2)-⑨「市民の学習活動推進のための、図書館の施設、設備、図書、資料などの提供」

コロナ禍のため、会議室等の利用制限をしていたが、コロナ明けで現在会議室等の利用、開放状況はどうなっているか。利用ガイドはオープンにしているか。

(事務局)

・コロナの関係では、基本的にはもう制限なしで運用しており、それぞれの館の状況に応じて工夫している。

・年報p.46に掲載の「北九州市立図書館管理要綱」の「利用の承認」に「学習室やセミナー室、ロビー等の図書館施設を利用できるのは、図書館の主催共催事業に限る、ただし、中央図書館長が、特別の理由があると認めるときはこの限りではない」というのがあって、今まで、この規定を厳格に運用してきたが、今後はこういう規定に従いつつも、地域の方に図書館をうまく活用していただくために創意工夫をしていきたい。



(委員)視点 4-(2)-⑥「子ども用トイレや授乳室の設置」

去年の評価は「－(評価しない)」で、令和4年度にいきなりAになっているのは、他館は全て子ども用トイレや授乳室があり、なかった折尾分館に設置したから「A評価」になったという理解でよいか。他の館はどうなっているか。

(事務局)

・折尾分館が令和4年7月に移転開館した際に、授乳とおむつ替えができる「赤ちゃんの駅」を新たに設置した。仮館のため設置していなかったところに新たに設置したので、A評価とした。R3年度の評価の際に、運営改善措置として「R4年度に移転開館する折尾分館に『赤ちゃんの駅』を設置する」という目標を立て、それが実現したため、今回A評価とした。

その他の館では、中央・門司・大里・新門司・曾根・若松・島郷。八幡南におむつ替えができる場所がある。また、子ども・小倉南・八幡・八幡西・戸畑では、「赤ちゃんの駅(授乳室とおむつ替えもできる場所)」がある。

・前年度の時点では、基本的にすべて何らかの設備が整っていたので、評価そのものを行わず「－(評価しない)」としていた。

(委員)

この事業概要のところに、「折尾館は…」ということを入れておけばわかりやすかった。

(委員)視点 4-(1)-④「子ども向け電子図書館の導入」

電子図書はたくさんいるというのは要望があってもなかなかできないことである。民間資金を活用し蔵書の充実を図ったのではないか。どのような努力をしてきたのか教えてほしい。

(事務局)

PTA協議会の財団から今年度で3年目(3回目)の支援を受けている。また、中央図書館時代以来通算で10年間支援をしていただいている企業がある。当初は紙の図書だったが、子ども電子図書館が開設されてからは、電子図書を支援していただいている。今年度はさらに別団体から支援を受けている。

(委員)

寄付金とは違うのか。

(事務局)

現物を寄贈していただく形をとっている。

(委員)視点 4-(1)-②「中央図書館、地区図書館、子ども図書館のホームページの充実」

8月30日から9月6日まで休館だが、ホームページの見直しと関連しているのか。

(課長)

臨時休館は、基本的にはシステムの更新に伴うものである。

(委員)

黒崎地域の活性化のために、八幡西図書館にいろいろなイベントに積極的に参加してほしい。八幡西生涯学習センターやユースステーションなどと連携して、不登校やひきこもりの方の、居場所づくりにも八幡西図書館の力を発揮していただきたい。

(委員)

子ども読書活動について、北九州市は 4 月と 10 月の2回に「子ども読書の日」の取組を行っている、本当にありがたい。こういう北九州市独自の取り組みをどんどん提案してほしい。

(会長)

視点4-(1)-④「子ども電子図書館の評価」の評価についてご意見があったので、「北九州市立図書館協議会による評価」の欄で、少し言及し、努力する点について記載するようにすることでよろしいか。県立高校の生徒への ID 配付や電子図書館についてのアピールするなどにより、貸出数増加につながると思うので、図書館側で充実を図り、よい評価が得られるようにしていただきたい。

#### 視点5「市民参画型図書館」について

(委員)視点5-(1)-①「読み聞かせボランティア養成講座の充実」

読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトークについて長年研修を行ってきたようだが、今年 3 月に「第 5 次子ども読書活動推進に関する基本的な計画」の中で、国はビブリオバトルや読書会、アニメーションなど 19 の事例を出している。子どもと本を結びつける他の多様な方法についても研修を行ってみるとよいのではないか。

(事務局)

読み聞かせボランティアは途中コロナの影響で中止になりながら、新しい視点を取り入れる努力をしている。特に今年度については、学校で活動しているボランティアを対象とした講座の仕組みやその内容の検討をしていかななくてはいけないと思っているところである。

(委員)

絵本と音楽(楽器演奏)のコラボでボランティア活動をしている。違う角度から絵本の読み聞かせのアイデアがあれば教えていただきたい。

また、図書館とどのようなコラボができるか可能性を模索しているところである。八幡西図書館が、「黒崎96(クロ)の日」に協力したとあるが、どのようにしたか知りたい。

(事務局)

令和 4 年度は「黒崎 96 の日」にちなんで 96 名の方にオリジナルブックカバーを配布した。

(会長)

視点 5 については、概ねこの評価でよしとしたい。

## その他

(委員)

総括のページで、3つの基本的な方向性と令和4年度の3つの事業目標がある。7年ほど前に作った「あり方の答申」にあるその3つの基本的な方向性に対して、5つの視点があり、50の評価ポイントがある。経年でやっていることと今年度の目標の評価が重なっているなど、少々わかりにくい。だから次の「あり方」の時には、その評価を全体としてやる部分と、プラス年度でやる部分の整理が必要だと思った。

今後7年の方針を作る際には、基本的なところから、重点的に取り組むところなど、並び方を考えていく必要があると思う。

(委員)

評価の基準について。Aは、「取り組みに前進が見られるもの(新たな取り組みが行われた、あるいは、実績は高水準を維持する・伸びるなど、大変順調である)」となっているが、私は、市内のすべての図書館で同じことが全部できたらAだと思う。「何々館では…」とか、「中央図書館では…」と書かれており、バラバラな感じがする。市内の図書館全館でこれを成し遂げようという方向性があるのか、全図書館は同じ方向に目を向けているのかと思った。全図書館が同じレベルに到達することを目指して欲しいと思った。それができてA評価ではないかと思った。

(会長)

いろいろご意見いただいたが、次の図書館のあり方を検討する際には、今日いただいたご意見等を踏まえていきたい。令和4年度の図書館評価については、基本的には今日いただいたご意見等を参考に、事務局と私と副会長とで文言等を整理していく予定である。一任していただきたい。

## 2 その他

(事務局)

- ・他市の図書館視察について
- ・図書館のあり方検討までの経過報告及び今後の予定について
- ・次回の図書館協議会について